



第30号 2023年5月 発行

<http://www.koshi-lib.jp/>

【特集】

「多文化」ってなんだろう？

本屋大賞ができるまで P6

新刊紹介 P7



国籍や民族などの異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。多様な人種・民族・社会的少数者の文化を尊重し、共存を図っていこうとする考え方のこと。

たとえば伝統行事・文化とは昔から今まで受けつがれてきた、しきたりのこと。日本の伝統を知ることは、日本という国の良さ。日本人が大切にしてきた心を知ること。これからは、海外で学んだり、仕事をしたりする人も増えて、また海外から日本に来る人も増えてくる。外国の人との交流がますます盛んになる時代になるからこそ、自分が生まれ育った日本のことをよく知って、好きになる。それが「多文化」の第一歩になるんじゃないかな。

まずは日本の伝統行事・文化を知ろう！

参考資料：齋藤孝の覚えておきたい日本の行事 齋藤孝/著

：はじめての行事えほん 小川直之/監修

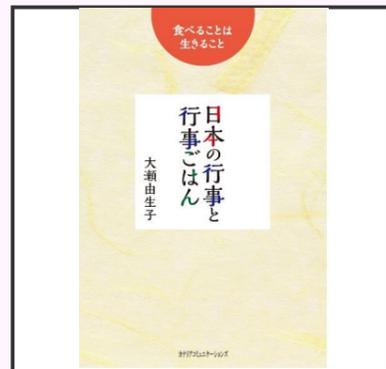


春の行事

3月～5月

春といえば、新しい出会いとお別れの季節。卒業式、入学式、ひな祭りにお花見・・・等々、週ごとに様々な式典やイベントが催され、一年の中でも特に忙しい時期と言えるかもしれません。

- 3月3日 桃の節句（女の子の成長を祝う）
- 4月上旬 お花見（桜を愛でる）
- 5月3日 憲法記念日（日本国憲法施行の日）
- 5月5日 端午の節句（男の子の成長を願う） など



食べることは生きること

日本の行事と行事ごはん

大瀬由生子／著

カナリアコミュニケーションズ

日本の行事の解説とそれにまつわる行事ごはんの簡単に作れるレシピをご紹介します。

より道やっちゃん

昭和の子どもブック

ロコ・まえだ／絵・文
辰巳出版

原っぱ、駄菓子屋、紙芝居、雑誌の付録。イラストと漫画で綴る、懐かしい日々がいっぱい詰まった昭和の子どもブック。

マンガでわかる

日本国憲法

木山泰嗣／監修
池田書店

日本国憲法の入門書。欧米やアジアなど、他国との憲法を比較することで、日本がどんな国なのかを改めて考えていきます。

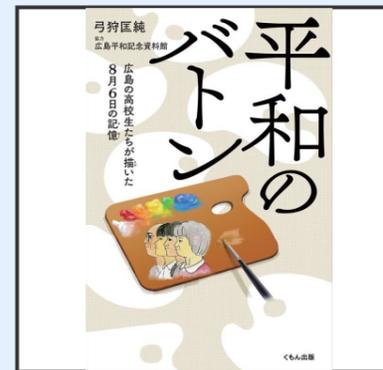


夏の行事

6月～8月

夏といえば・・・『あつさ』を感じる季節。夏の暑さを乗り切るための習慣、高校球児の熱い思い、語りつがれる歴史の厚み。日本ならではの『あつさ』を感じることができます。

- 7月7日 セタ（織姫と彦星が年に一度会う日）
- 7月20日 土用の丑の日（土用の間の丑の日）
- 8月6・9日 原爆の日（平和を祈る日）
- 8月15日 終戦記念日
- 8月中旬 お盆（先祖の霊を迎える）など



「絶対に忘れてはならない」被爆体験証言者の「記憶」を「記録」へ。戦争や原爆を見つめなおす一冊。平和とは何か？改めて考えてみよう。

平和のバトン

弓狩匡純／著
くもん出版



「お盆とは何か？」を幼児向けに説明している絵本。豆知識のページが挿入されており、平易な文章で、お盆とはどのような行事かをすぐに理解できる。

おぼんぼんぼん おどりの日!

ますだゆうこ／作
文溪堂

全国の高校球児が目指す場所、それが甲子園球場。甲子園に行けた人、行けなかった人、一つの場所を追い求めた末に、彼らが得たものは？

甲子園に行くのが夢だった

松坂大輔／監修
飛鳥新社

秋の行事

9月～11月

秋といえば・・・ お米や果物が実る秋は、快適に過ごしやすい季節。食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋……など いろいろな秋がありますね。みなさんは、どんな秋を思いつくでしょうか。

- | | |
|---------|--------------------|
| 9月第3月曜 | 敬老の日（お年寄りを敬う日） |
| 9月23日 | 秋分の日 |
| 10月第2月曜 | 体育の日 |
| 11月3日 | 文化の日 |
| 11月15日 | 七五三（3歳5歳7歳のお祝い） など |



季節をめぐる星座のものがたり
夜空にかがやくたくさんの星たち。いくつかの星座には、昔の人們が考えたものがたりがあります。夜空を見上げて、すてきなものがたりを感じてみてください。

永田美絵／監修
汐文社

どんぐりさんぽどんぐりあそび
どんぐりを拾って、作って、飾って、食べて、染めて……。子どももおとなも、もっとおもしろくなる秋の散歩のアイデアと実践の本。

おおたきれいこ／著
かもがわ出版

満月珈琲店の星詠み
猫のマスターと店員が、極上のスイーツやフードとドリンクで客をもてなし、マスターは訪問客の星の動きを「詠む」。悩める人々を星はどう導くか。

望月麻衣／著
文藝春秋

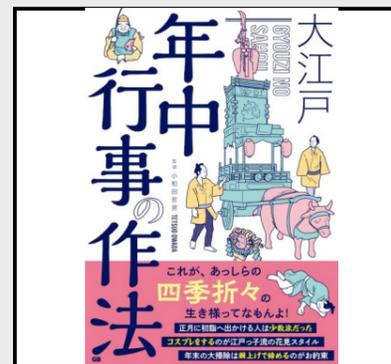


冬の行事

12月～2月

冬といえば、一年を振り返り、しめくり、新しい一年を始める季節。お正月の門松・鏡餅、節分の恵方巻など、昔ながらの風習にたくさん触れることができる季節といえるでしょう。

- | | |
|---------|------------------|
| 12月31日 | 大晦日（1年の最後の日） |
| 1月1日 | お正月（年の初めを祝う日） |
| 1月7日 | 春の七草（七草がゆを食べる） |
| 1月第2月曜日 | 成人の日（大人への仲間入りの日） |
| 2月3日 | 節分（豆まきをする） など |



大江戸年中行事の作法
正月に初詣へ出かける人は少数派だった…。江戸時代の人たちの文化を、現代と比較しながらイラストとともに紹介します。

小和田哲男／監修
G.B.



二十四節気と七十二候冬
日本の冬の特徴や自然の変化、動物や植物の様子を美しいイラストで紹介。さらに冬の行事や季節の言葉など、冬に関する様々なことが学べます。

坂東眞理子／監修
教育画劇



18歳成人になる前に学ぶ契約とお金の基本ルール
成人を迎える前に知っておきたい、契約とお金のルールなどの基本的な知識を漫画やイラストを交えて紹介します。

消費者教育支援センター／監修
旬報社

本屋大賞が できるまで

売り場からベストセラーをつくる!

商品である本と、顧客である読者を最も知る立場にいる書店員が、売れる本を作っていく、出版業界に新しい流れをつくる、ひいては出版業界を現場から盛り上げていけないかと考え、同賞が発案されました。

書店員の投票だけで選ばれる賞です。

「本屋大賞」は、新刊書の書店で働く書店員の投票で決定します。過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。

書店員が売りたい本を選ぶ賞＝読者に近い感覚で親しみやすい作品が選ばれるため、受賞作品やノミネート作品は映像化されるものが多いのも特徴です。

全国書店員が選んだ
いちばん!
売りたい本

2023年本屋大賞

読書が苦手な人は
映像作品を見てから
原作を読むのがオススメ

2023年

本屋大賞

『汝、星のごとく』

風良ゆう/著 講談社

小さな島で青春をともに生きた主人公の権と暁海が、さまざまな苦悩の中に、それぞれの人生を生きていく姿が描かれる。

『ラプカは静かに弓を持つ』

安壇美緒/著 集英社

『光のところにいてね』

一穂ミチ/著 文藝春秋

2022年

本屋大賞

『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬/著 早川書房

独ソ戦のさなか、少女が狙撃兵となり復しゅうのため、過酷な戦場を生き抜く姿を描いた物語。

『赤と青とエスキース』

青山美智子/著 PHP研究所

『スモールワールズ』

一穂ミチ/著 講談社

2021年

本屋大賞

映像化

『52ヘルツのクジラたち』

町田そのこ/著 中央公論新社
母親から虐待を受けていたキナコと同じ境遇の愛が出会い、お互いに過去と向き合い決別し、今を生きていく物語。

『お探し物は図書室まで』

青山美智子/著 ポプラ社

『犬がいた季節』

伊吹有喜/著 双葉社

2020年

本屋大賞

映像化

『流浪の月』

風良ゆう/著 東京創元社

公園で女兒を保護するも“誘拐罪”で逮捕された青年と、“被害女兒”とされた少女が、15年後に再会する様子を描く。

『ライオンのおやつ』

小川糸/著 ポプラ社

『線は、僕を描く』

砥上裕将/著 講談社

新刊案内

新しく入った本を
紹介します

大嫌いな世界に
さよならを

音はつき/著
スターツ出版

どうすれば争いを
止められるのか

上杉勇司/著
WAVE出版

遠い空の下、
僕らはおそろおそろ
声を出す

野中ともそ/著
光文社

中高生や社会人の
みんなに聞いてみた
生理の話

池田亜希子/著
ペリかん社

10代からのメンタルケア
「みんなと違う」自分を
大切にする方法

本田秀夫/著
KADOKAWA

YA新聞では、おすすめの本、イラストなどを募集しています。
「YA新聞」とご記入のうえ、図書館の「伝えたい」の箱に入れてください。
ぜひお待ちしております!